京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金卅五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 二月十一日
發行兼編輯人 山下[illegible] 印刷人 [illegible] 京城西署西小門外
發行所 京城新報社 電話六六三番

滿洲鐵道政策（下）

一外交官某氏

露淸の鐵道政策

滿洲に於ける日本の幹線鐵道は南滿洲に於て寬城子大連間四百十一哩を有するのみなるに拘らず東淸鐵道線を以て歐露線に接續して淸國の北彊を包擁す、若し淸國にして滿洲及び蒙古に於て鐵道を敷設せんと欲せば露國所有鐵道に於て其接續點を見出さゞるべからず、將來の淸國との鐵道關係に於て日本は露國に一分を輸すと云ふも可なり岑春煊の奏請により既に批准を經たりと稱せらるゝ淸國鐵道計畫なるものを見るに滿洲及蒙古方面に於ては京張鐵道（北京張家口間）により北京より張家口を經て庫倫、恰克圖に達するものを北幹とし、更らに張家口より二線を出し、一は東して熱河に至るを張熱鐵道と稱し一は西して綏遠城に至る張綏鐵道及庫倫より二線を出し內外蒙古に至るの枝線を加へ東幹線として關內外鐵道を奉新（奉天新民府間）鐵道に連絡せしめて京奉鐵道と稱し、前黑龍江將軍程德全の計畫に基き、江省鐵道を創建して新民府、洮南府、齊々哈爾を經て愛琿に達するの鐵道を敷設し、之が枝線として關外鐵道中溝幇子より一線を出し營々を經て旅順に通じ奉天より東斜めに走りて露國東淸鐵道に接續するの一線を敷設するにあり、北幹線は蒙古縱貫鐵道として露國の曾て敷設計畫をなし、測量に從事したることありと聞く如上の淸國の鐵道經營は露國をして勞せずして功を收めしむるが如し、其接續上には終點は皆露國の勢力の範圍にして之を利用するものは露國なり淸國が自ら實力を揣らず、徒らに利權熱に浮され、鐵道を敷設するは可なれども自ら營々として勞し、獨り露國をして座ながら利用の功を擅ままにせらるゝが如きは決して智者の業にあらざるべし、淸國の爲めに計るに一時大に計畫の鐵道敷設を遂行するよりも寧ろ短線を漸次に延長して其地歩を確定するの漸進主義を以て鐵道政策とするを得策となす、接續地及終點を見よ恰克圖は外蒙古西比利亞の貝後加爾州の境上に位置し淸領貿易地と接續せる露領なり、庫倫は露人の移住地にして其勢力淸人を壓し、熱河と云ひ、洮南府と云ひ、齊々哈爾、愛琿皆な然らざるはなし而して斯の如にして淸露兩國の鐵道政策は政治上の意味を除却するも經濟的方面に頗る不利なるものあり、長春吉林北間[illegible]或之れにより開拓せられ、松花江平原の一部、東遼河上流の平原四千方里齊々哈爾の南北嫩江以西一千方里、黑爾根以南嫩江東西八百方里、吉林土們平原五百方里牡丹江平原寗古塔附近一帶五百方里の鐵路は皆な開拓範圍にして松花江黑龍江の水運は倍々之を促成し北蒙古一帶は全く其恩惠を離るゝことを得ざるものあり、將來若し其時機ありとすれば露國は浦潮を基點として浦港に連絡を求め更らに東淸鐵道との連絡は計らざるべからず、北韓と滿洲との貿易及び此の間一帶の開發支配權を有するに至るべし。

日本の鐵道政策

將來日本の滿洲に於ける鐵道政策は如何にすべきか、南滿鐵道幹線は今日の儘にては其經濟的功果は未知數なり、少くも其功果偉大なりと云ふことを得ず、吉長線の將來の竣成は稍々其功果を添ふるに似たるも、猶も一羽一毫の重きを加へたるに過ぎず、安奉線は變更線と共に暫く研究問題として存せば今日に滿洲に於ける日本の鐵道の功力略は察し得べし、而して將來の鐵道政策は如何にすべき歟、吾人は其方針は南滿幹線を基礎として滿洲內地の開發に力を致すと共に鐵道を以て滿韓の經濟及交通上の關係を緊密ならしむるの途を撰らばざるべからずとす

滿韓の經濟及び交通上の關係に於ては安奉線は戰役時代に急設せられたるものにして軍事上の意味に於ては兎も角經濟的方面に於ては聊かの調査を經されたるものにあらず素より其功果なしとせざるも更らに他に線路を撰擇せざるべからざる理由あり、現在の安奉線は交通の點に於ては或は可なるも滿洲內地の富源開發の機關としては決して適當なりと云ふことを得ず、然らば安大の變更線は如何、是れも同じく同理由の下に其功果の大なることを信ずる能はず、安東縣は滿韓の接續地點として適當なるに異議なきも奉天及び其以南の南滿鐵道線路と連絡するは單に交通の利便以外何等の功果を認め難く、猶ほ將來滿洲の大に開發せる曉は今日交通の利便は必ずしも保し難きものなり、若し安東縣を基點として將來の滿韓の經濟的連絡を確定せんと欲せば安東縣より吉長鐵道の連絡線を敷設するを以て一策とす、松江原上流一帶の平原は此鐵道線路の縱張內に入り、山川田野の富源を吸引し從つて開發の機運を促成するの勢力となり、韓國を以て其吐地とし延ゐて其の經濟的活氣を養成するに至るべし若し更らに其計畫を大にせるものは吉長線を北韓の連絡線路にして吉林より敦化、局子街を經て韓國に入り會寧を通じ淸津港に出づるもの是なり、延長二百五十哩餘、以て滿韓連路の幹線とすべし、是線路により滿韓の廣原と日本海との連絡を作成せるは將來彼我交通の一大得策たるのみならず經濟的功果及滿韓開發の促成に至つては更らに甚大なるものあり、斯の如きは今日直ちに實際問題として現はると明言する能はざるも將來に於ける滿韓の發展及び日本の實力は必ず其時機あるべきかを信ず、是れ自然の機運に伴ふ必然的計畫なり。若し夫れ今日獨り安東線變更に腐心せるが如きは大局の明を缺くものにして須らく安奉線は安奉線として改築を完了して可なり而して更らに滿韓の經濟及び交通の關係を緊密ならしむると共に滿韓の開發に資すべき鐵道政策を講ずるを以て急務とす。

日露の將來（一）

一月三十一日のノーウオエ ウレミヤ紙上に「未來の戰爭」と題して左の如き說を揭げたり

我が露國は未だ曾て最近の日露戰爭の如き悲む可き戰爭を爲せる事あらざるなり我が露國の敗跡を以て終りし戰爭は一再に止まらざりき一例を言へば一千八百五十四年同五年の我が敗跡を招きたる困難なりし東方戰爭もありたりシリスツリアの役、アリマ、インケルマン、マラホフ クルガン、セバストポールの退却等の諸戰役もありたり併し亦バシ カドイクラル カルス、シノブ役等の勝利も無きに非ざりき然るに日露の戰爭には敗北に敗北を重ね最後には恥辱なる講和を爲し地を割くに至りたり至らば如何我等は敗跡の眞因の惟だ重なる者一事たりとも之を解得せりや歷史が我等に與へたる困難なる教訓は何等かの利益となりたるか我等は果して警醒せりや我等は未來の戰爭の爲に備ふる處ありや想ふに何等の用心も備ふる所もあらざるが如し「平和は締結せられたり戰爭は終れり甚だ可なり間もなく祭りなり御馳走の用意す可し」といふ我が國民の如くに輕操なる耐習は恐らくは他に非ざるべし

先づ政治上の方面を觀察せんか此の戰爭は兩交戰國と極東の事態に直接利害關係を有する列國に如何なる反響を與へたるか此の利害關係を有する諸國は言ふまでもなく日露米英の四箇國是れなり

余は日露戰爭前紙上に太平洋に於ける我が國の位置を觀察して我等は太平洋上に何等權力上の位置を占めん事を要する動機を有せず我等は太平洋上に何等精神上の利益を有せざる事を論證し且つ此の論を補ふに我等が敢て他國の版圖を併せんとする必要なし我等は一意專心に自國の領地と我が血族たる全北西西比利亞及び堪薩加を防守すべしとの說を以てせり然に其に全く反對の事行はれたり我等は他國を兼併せんとして却て自國の富有なるサガレン島の半ばを失へり然らば我等は如何にす可きか若し夫れ既に失せる事故を回復するを得ずされば何ほ此上に一層大切なる者を再び失はざらん事を思念せざる可らず我が露國は是に關して果して何等かの施設する所ありや請ふ吾人をして以下之を窺はしめよ

現今、日本は如何なる狀態に在りや日本は何に因りて我が隣國となりしやを明にせんと欲せば須らく日本人の心裡に立ち入りて之を思考せざる可らず我等は只此の隣邦を解せざるのみにて更に日本を解せざるなり「一佛國人は『彼等（露國人）は識らざるなり』と題する著書を公にせる者あり然り我が露國人は日本人の精神上の力も物質上の力も日本人が戰爭前に貯へたる強固なる結合力も皆な之を識らざるなり日本人がポーツマス平和の父たる下關の平和條約締結後に我等を如何に見居りたるかを識らざりき我等は我が弱點の存する所を解せざるなりされど茲に一の例外あり是れ『我が識らざる事』の例外として擧示せざる可らず今を去る十四年前我が東京駐劄公使ヒトロオ氏は我が外務大臣に熱心慫慂して日本人と結托せしめん事を勸告せりヒトロオ公使はロバノフ侯（橫濱領事）をして半ロバノフ侯を輕蔑せるも我が國人は彼を以て猿猴として蔑視せり是れ實にヒトロフ公使は能く日本を解せる者といふ可し日本の現狀は果して如何、日本國民は是れ勇敢狡猾にして堅忍に且つ愛國心に富める人民なり日本人は世界の政治舞臺に現はるゝや意外の勝利を博し今や非常の慢心に滿てられ一種のモンロー主義ともいふ可き『亞細亞は亞細亞人の亞細亞なり』との主義を實行せんとせり日本國民が實際に必要とする者は其の土地なり然らば如何せんとするかといふに日本人は全力を注ぎて何處よりなりとも其の必要とする土地を得ん事を熱心これ慮りて止まざるなり日本は其の土地を何處に何れよりとするか日本の太平洋に於ける將來の政策は此の問題の決定如何に依りて定まるものなれば宜しく我等の了解し且つ識らざる可らざる事柄なり太平洋沿岸を領し居るは日英米の四箇國なり（淸國は其現狀よりは見て除外として可なり）日本は如何にせんとするか日本は他の三國即ち露米英の何れより其の土地を獲得せんとするか其の人民繁殖の過剩を米國に投棄せんとする計畫即ち平和の道を以て北米の沿岸を占領せんとする計畫は日本の爲に失敗に終りたり米國は日本人に對して長き眼をむき出したる爲に恰悧なる日本人は米國方面に對しての版圖擴張の野心を放棄せり

暴徒討伐情報

軍司令部着報告

△騎兵分遣所長報告 暴徒の密使四名中嶺鎭（長津の街道上）に來り銃器を徵發しつゝありとの報を得たる分遣所長は其部下と共に二月廿二日午前四時降雪を時機とし中嶺鎭に向て出發し同六時下中嶺に着し附近の人家を搜索したるに賊は逃走を企てたるを以て其一を射殺し他の三名を追蹤し上中嶺を距る約數里の山中に於て之を殪せり

△賊五十二を殪す 橫城日井中尉以下十八名は五日午後三時柳洞に於て約百五十の賊と遭遇し交戰約二時三十分の後北方に潰亂せしむ賊の死体五十二負傷者若干銃二十五鹵獲す

宣諭委員と一進會

江原道宣諭委員韓宣東は伊川平康金化の三郡を巡回せしが其宣諭方法は郡邑並に通行沿道又は市場等の群衆を利用して之を行ひつゝあり先づ歸順に關する詔勅を朗讀し次きに日本が韓國を保護し日本人を韓國官吏たらしむるは韓國併吞の野心あるに非ず先進國の義務として指導をなすに過ぎざるを以て人民は誤解妄動すべからず又自衛團は往古より行はるゝ五家作統の例に出で人民各自團結して凶徒侵入の防禦に任ずるものなれば宜しく警察官軍隊の指揮を承け急速之を組織し秩序の恢復に努むべし云々と演說し居れり然れども人民に對して格段なる感動を與へたる狀なしと云ふ同宣慰委員は伊川郡一進會支會長が慰問狀を贈りたるに對し苟くも勅命を奉じて宣諭委員となれる者に一進會如きより慰問狀を贈るは不敬不穩なりとて之を斥け又金化郡邑に向ふ途次三月一日同郡內面梨峴里道路に於て宣諭をなすに當り金敏濟（六十年）なる者が胡坐して聽聞しつゝあるを認め起立敬意を表せざるは不都合なりとし其の旅舍に召喚して之れを詰責したる上兩足を縛し鞭撻を加へたる等の事あり同地方民は宣諭使の傲慢なる態度に不快の念を起し居れりと云ふ

●郡守の非行 平安北道昌城郡守金相範は元自強會員なりしより姜錫璟なる者を使嗾して大韓協會支部設置に奔走せしめ或は昌城日語學校日本人敎師が本月聘傭契約滿期となるを機とし之を解傭して將來日本人を聘傭せざる事に決定する等種々排日的行動をなしつゝありしが今回前朔州郡守金鍋根在任中の非行取調の命を承け該地に出張し金よりの金二千圓を收賄し且つ同郡主事に强要して旅費として金二百二十余兩及び金巾八十二疋を收受したる事發覺し寧邊裁判所檢事に訴追せられたり

●群山貿易の不振 群山附近にては暴徒橫行のため出穀上影響する處少なからざるべしとは一般の豫想せし處なるが群山第一銀行の調査によれば單に關稅收入のみにても本年一月は昨年一月に比し五千三百廿二圓餘又二月は同しく昨年の同月に比し三千五百廿九圓餘の何れも減少を呈したれば其輸入品高は多大の減少にて本春は昨年の春季に比し群山貿易は大に退歩したり

小說 紋のみだれ（九十三）

永井櫻園

勇五郎はグビリ〳〵飲みながら聞いて居つたが、呷と飮干して杯を下に置く、「何だと、老少不定だから何日何時汝が死ぬかも知れないから、儉約にしろ、そりやア人の生命だもの、今日死ぬか明日死ぬか分るもんか、汝の生命が知れなきやア私の生命だつて知れないさ、だけれども、若い者が殘つて老人が死ぬのは、世の中の御定法だ、汝は私が幾歲になると思つてる、これ今年はモウ六十だぞ、六十だぞ、定命を十年越して居るぞ能く世間で棺の中へ片脚入れてると云ふが、私などは年齡から云へば、モウ兩脚を入れてるのだ、若い時から此年齡になるまで齷齪々々働き通しに働いて、其の苦しい中から汝をこれまで育て上げたは、何を目的に育てたと思ふのだ、棺桶の中へ兩脚入れるやうな年齡になつてから、飮みたい酒を飲み、食ひたい小肴でも食つて、樂に暮したいと思へばこそだ、それに僅ばかりの端金を節儉にして奈何するのだ、千兩箱を富士の山ほど積むで見た所で、冥途まで持つて行かれるぢやアあるまいし、現世に生てる間にでもせめて、人間並の物を食つたり飮んだり爲なければ、人間に生れて來た効が何邊に在るのだ、汝が私より先へ死んで了へば、そりやア爲方がないと斷念るが、汝が然うして働いてる限りは、誰が何と云はうが好な酒を鱈腹飮むで、食ひたい魚を飽くほど食はなきや置かないのだ。汝だつて能くまア考へて見い、其年齡まで足手を延して貰つて、まだ其上にあれほど人氣が出るまでに技藝を仕込むで貰つたのは、誰のお蔭だと思ふのだ、それを難有いと思ふなら、御恩返するのは今の中だ、れ養父さんが苦しい中から技藝を教へ育てゝ下れたんだから、酒を飮ませやう、魚も食はせうと思つても、死んで了へば食はす事も飮ます事も能ないぞ、それを思ふたら、何だ小鯛の一尾位買つたからつて、ヤレ贅澤が過ぎるの、不時の準備に金子を殘せとの、私に向つて云はれた義理ぢやアあるまいぞ、あんまり胴慾な事を云ふと、汝の身に罰が當るぞ少しは物を考へて云へ。」

「そりやアモウお前さんの御恩は百も二百も能く承致してるけれど私が何うにか稼いで來るから贅澤も能るけれど、若も私が金儲の能ない軀だつたら奈何しますそれでも自分の娘なら爲方がないでせう。」

「那樣不立用女なら、宅になんか置くものか、疾の昔に女郎にでも叩き賣ツて了ツてる。」

「那樣亂暴を言へば爲方ないけれども、若も私が宅を飛出しでもしたら奈何します、それでも爲方ないでせう」

「なに爲方のない事があるもんか、宅を飛出しでも爲やうもんなら、それこそ其儘置くものか、足手の利かないまで敲きのめしてくれる。」

「ぢやまあア食たい物を食べ、飮みたい酒を十分飮むで、爲たい贅澤勝手に爲なさい、モウ私何にも言はないわ。」

「うむ、いくらでも食べる。」

京城新報

號を累ぬる一百

我儕不敏を顧みず猥りに言論の機關を創設するや、四圍皆太平を謳歌し、天下を擧つて統監政治の効蹟を讃美し、苟くも其筋の利害得失を議すや、惡聲忽ちに至り、壓迫大に來り、志士の體面を保ち、國事を謀るもの身を容るるに誠に至難なりき。

然れども公論は終に葬る能はず、我儕區々の志一旦公議の存する處を紹介し輿論の向ふ處を宣明するや、皆て傲岸人に語るに功蹟の赫々たるを以てし、世に示すに善政の盡くされたるを誇るもの、次第に其實蹟の空疏なるに省み其施政を改變し、大に發展すべき新時代の要求に對して轉た着然たらざるを得ざるものあり、是れ豈に我儕言論功蹟の大なるが爲めならんや、實に太平瘡榮、形式の美、皮相の功に滿足せざる帝國國民の要求の先驅となり、大勢の趨向に從つて論議したるが故なるのみ。

今や號を累ぬる已に壹百に及べり、我儕は心中偏へに我讀者に對して其同情の多大なりしに感謝せずんばあらず、想ふに一百號は新聞紙よりせば僅かに一年四分の一日を經過したるのみ、而かも惡戰苦闘、時代に逆行したる我儕の經過は實に十年の日月を送くるの感懷あらしめたり、今や天下の新氣運將さに勃興せんとするに際會し、聊か同情ある讀者に感謝の意を表し、併せて自ら意を强ふするに至れるを表白し、茲に一百號の紀念辭を作る。

陸軍紀念祭雜觀

一讀者投

本年の紀念祭も如例年盛んに祝され候事は偏へに　大元帥陛下御稜威の致す處と感謝仕候、當日の盛況は已に各新聞に依つて報道濟と相成居候に付茲には單に小生の雜觀を記述し編輯諸子の御笑に供し候

▲當日の飾物中大陸的に出來て最も振つたるは天下太平脾肉の歎の大達磨に候此大達磨身を小丘に横へ擬戰の地雷火が轟然爆發し天を衝き土砂黑烟を捲くるを平氣で睨み居るに至て更に一段振つたるを相覺申候、傍人曰く彼の達磨は足を有せりと而れば彼は達磨にあらずやも知れ申さず候

▲式場に於ける長谷川大將の祝辭朗讀は音聲態度莊重にして滿場士女の襟を正さしめ候東洋の平和は我忠勇なる軍隊が熱血を以て購ひ得たる者と思へば一層平和の貴重なるを相悟り申候

▲任內相は韓國側を代表して萬歲を三唱致候同じ萬歲もまんせいと發音されては和するに稍力拔け致候他の韓大臣等が何れも市民服なるに趙重應一人チヤリ子服なりしは一寸目障りに感じ申候

▲式場に於ける韓大臣等は未來永劫今の榮華の續くものと思ひて得意に談笑せり夫に引換へ次官諸氏は氣のせいか急に老年を召したる様御見受け申候

▲最も愉快なりしは攻擊軍が鐵條網を破り敵壘を占領し旭日旗を押立たるときに候此壯觀に接しては寒氣も增稅も恐れさる威を相起し申候

▲戰利品拾得の際に於ける士女の活動は中々目醒ましきものに候彌々となれば日本の女子も男子と戰場に立て輸贏を爭ふの資格あることを發見致候

▲何時も戰場の金儲と云へば支那人に限り候此日もチヤン先生擬戰用の爆竹を供給しあちこちを駛廻りて大分儲けたる様子に候

▲擬戰中模擬店掛の赤前垂列を作りて丘腹より見物せり或人曰く戰闘の前線に赤前垂は至極妙なり敵を招降するに最も妙なりと

▲擬戰中に時事新報特派員久田君を見失ひ申候小生は彼が戰況を本社に打電すべく走り行きたるものと信じ其職務に忠實なるを歎賞致候併し後にて聞けば彼の失踪は江戶子模擬店占領の爲とか聞及申候

▲山へ登るは石堂丸とは限らず五千の士女は蟻の引くが如く模擬店目指して山登さ出掛候何れの店も客は一パイなれども余所に見るが如き雜踏を見受け申さず候之は御馳走供給の饒多なりし爲各人生存競爭の天眞を發揮せざりし所以と存候

▲午砲山に達する手前の自然石に寶祚の無窮を祈る伊藤博文記すと切付あり或人の曰く寶祚の上に大日本至上陛下の七字を加ふべきものなりさ

▲曾禰副統監と當日の主人長谷川將軍とは各模擬店に於て士女團集の中心となり談笑を試みられ候此和氣靄々たる處が當日御馳走の花たることと看取致候

▲曾禰長谷川兩將の外に實力的人氣を以て五千の士女を一身に引付けたるは鐵道の關君と民長の熊谷君に候此二人者が何となき一種の引力を有することは持つて生れた德かとも存せられ候

▲最も愛嬌ありしは大阪每日の楢崎東陽君が少女水雷四艇を率ひ自ら母艦となり午砲山目掛けて登られたる事に候赤前垂曰く楢崎さんには第二次會の交涉はダメよとは小生の耳に挾みたるところに有之候

▲餘興の手踊も芝居も結構なりしが最も面白かりしは力士諸君の角力なりしと彼存候關脇の勝負は行司の見違にて物言付きしが四本柱を脊負ひたる長劍釣りの檢查役か號令的に其物言ひを捌きたるにより一層の興を加へ申候部下を愛する長谷川將軍莞爾として見物致され候之には士卒も大に喜びたること〻存候

▲一銀の營業部長木村君の側に立てる妙齡の美人あり或は木村令夫人ならんと思つて丁寧に一揖せり仰いで顏を見れば花月の花奴なりき之に當日に於ける小生が掉尾の失策なることを自白仕候

東京電報

▲有栖川若宮の御病狀　有栖川若宮殿下は江田島に於て御病氣危篤に陷らせられしも本日は稍々快方に向はせらる（前電伏見宮とありしは誤り）

▲大同倶樂部と三稅廢止　大同倶樂部は黨議を以て三稅廢止に反對するに決し特に除外例を許さずとなせり

▲原遞相の兩院議員招待　原遞信大臣は現議員在任中鐵道國有其他の重要案件に協贊せる勞を多とし本月二十日貴衆兩院議員七百餘名を招待する筈なり

▲北海道の風雪被害　北海道特に釧路方面大風雪にて被害甚しく救護のため警察官消防夫を派遣しつゝあり死傷者多數ある見込なり

▲瀛車雪中に埋沒す　膽振國に於て一列車風雪のため埋沒し五百名の旅客雪中に在り

▲倉富次官其他の歸期　倉富法部次官は十七日出發歸任し京城控訴院長城數馬氏は二十日出發赴任すべし

（以上十一日發）

各地電報

▲賊收稅員を襲ふ　三月九日賊徒十七名三嘉郡屯內面東長里（郡邑より十里）なる稅金領收員林址煥方を襲ひ稅金三十七圓を掠奪し同地附近に潛伏し居との報あり當地警察署より日韓巡查四名を派遣し搜索中なり（十一日午後晉州發）

雜報

●乾元節祝電　去る十日乾元節に際し伊藤統監より韓國皇帝陛下宛て左の如き祝電ありたり

恭しく皇帝陛下の乾元節に當り遙かに萬歲を三唱して以て奉祝す

右に對し直ちに陛下より左の返電を發せらる

祝電謝す逆に病氣全快を祈る

又同日在京の韓太子より陛下に對し左の如き來電ありたり

本日は陛下の乾元節に付き午前十時日本皇帝陛下より侍從職幹事侍從岩倉具定を又皇太子殿下より東宮侍從子爵大迫貞武を遣はされいとも懇篤なる祝辭を至さしめらるゝ臣は直ちに電報を以て陛下に奏上すべき旨答へ置きたり又其の際嫡彥王稔彥王成久王恒久王の四殿下も祝賀の爲め來殿せられたり

●園遊會延期　總理大臣李完用氏の主催にて乾元節園遊會を來る十七日に昌德宮內秘苑に於て開かるゝ筈なりしも更に來る二十八日に延期したりと尙は同會委員長は內閣書記官長韓昌洙氏にして委員は各府部勅任官中より七八十名を撰定すると云ふ

●韓近衛隊服裝　韓國近衛隊の服裝變更は日本の近衛兵と略ぼ同一なる制度となりたりと

●鑛業稅徵收規定　度支部に於ては今回鑛業稅賦課徵收規定を制定したり其大要は左の如し

一、鑛業稅納稅者の住所氏名、鑛區所在、鑛區坪數、鑛產物の價格、農商工部の許可年月日等は時々司稅局より鑛區又は採取區を所管財務監督局に通知す可し

二、財務監督局より前項の通知を受たる時は之を所轄財務署に移牒す可し

三、財務署にて前項の移牒を受たる時は之を帳簿に登錄し所定の納期に賦課し徵收す可し

●軍司令部會議　軍司令部にては昨日午後一時より同部樓上會議室に於て長谷川大將を始め岡崎第十三師團長第十五旅團長及び各參謀等列席し參謀會議を開き何事か審議する所ありたり

●揚州扭山間の激戰　扭山分遣所及び揚州郡分遣所間に於ける交通路を安全に保持せんが爲め揚州郡分遣所にては去る七日午前憲兵數名を扭山分遣所に派遣せしが一行は同十一時頃同郡伊談面松羅里の北方約二十米突の所に達せしに約五十名許りの賊徒道路に接近したる雜木林の中より我に向つて發砲せしより我は應と許りに砲火を酬ゐしに賊は頑强に抵抗し死力を盡して我に當るにぞ我は聊か逡巡し早速鎌田上等兵をして之が應援を乞ふべく所屬分遣所に急派し依然戰闘を持續せしに賊は終に我が精悍なる武力に懼れ爭奔獸走せしが應援隊の來りし時は既に賊は其の影を失したる後なりき

●高山谷の賊　開城守備區內溫井院守備隊は三月八日溫井院の東北方約四里にある高山谷附近に於て約百の賊を擊退し其十六を殪し十二三名を負傷せしむ鹵獲品銃若干あり我上等兵一名輕傷を受けたり

●格闘三十一を殪す　忠州守備區橫城南方約五里安興に在る分遣隊は三月八日橫城東方斗元附近に於て約六十の賊を襲擊し肉迫格闘して之を潰亂せしむ賊の遺棄せる死屍三十二負傷若干鹵獲品小銃數多し

●宿家燒棄さる　二月廿九日夜約二十三名の賊は加平郡の一村落に來り村長及曾て討伐隊の宿營したる村民の家屋を燒棄し日本兵を宿營せしめたるを罰せりと云ふ

●天道敎主負傷の詳報　天道敎主孫秉熙が鐵山に於て暴行を受け負傷したる事は新義州電報によりて報導し置きたるが今當時の事情を聞くに同人は權東鎭なる者を伴ひ巡回布敎の途三月五日龍岩浦車輦館に滯在中同地學校學務員李基甫及び敎師二名の懇請により學校に於て演說をなしたるに李は、孫に向つて同學校補助金として一千圓を寄附されたしと强請して拒絕せらるゝや孫は目して宋秉畯、李容九の黨與に屬する賣國奴なりと罵詈し將に暴行せんとせしも衆人によりて出張せし巡查に說諭せられて事無かりしが孫は翌六日鐵山に到りたるに車輦館に居住する吳昌殷なる者李基甫の名刺を携へて孫に面會を求め再び金一千圓の强請をなし其の承諾せざるを見るや大聲賣國奴なりと呼び之を傳聞して集合したる村民二百餘名は棍棒又は石塊を以て暴行を加へ頭部に長サ三寸深サ五分位の重傷を負はせたるなりと云ふ孫は翌七日新義州に到り治療中の由なるが全治には三週間を要すべし

●免罪文憑發送　甲山郡より同地方の賊魁車道善以下五百八十餘名歸順せしに付交付すべき免罪文憑送付方請求し來りしを以て本日內部より右文憑五百八十餘枚を舘必書と共に發送せり

●一進會支部長の非行　公州一進會支部會長李斗秀は自衛團援護會本部より忠清南道勸誘委員長に推選せられたるを奇貨とし同道自衛團監督と自稱し肆に旅行券を作製し一枚金一錢五厘にて發表せんと企て其の配下なる一進會員は恩津郡內に於て一枚金二十錢を以て人民に强賣しつゝあるを發見され同會員は刑事訴追に附し李斗秀は嚴戒を蒙りたりと云ふ

●一昨日の通常民會　京城居留民團通常民會の第三次會は一昨日午後四時より民團役所樓上に於て開會せり出席議員は和田議長を初め山口、秋吉、中村、古城、濱野、貞島、梶原、增田森三、三好、田中の十三名にて四十一年度歲入出經常臨時部とも委員會報告の通り決議し南大門附近より日の出町に通ずる新道路開鑿に關する案は五名の調查委員を設け二ヶ月以內に充分の調查をなさしむることに決したり其調查委員は左の如し

中村　再造　　濱野　德次郎　　曾我　勉
森　勝次　　貞島　品吉

の諸氏多數を當選し特別會計に屬する漢城病院豫算は委員會報告の通り決したるも同院新築費六萬圓の臨時支出に就ては山口古城兩議員の間に見解を異にし議論紛出したるを以て遂に協議會を開くことに決し十二時閉會したり

●仁川開港紀念協議　過般來種々計畫中なりし開港廿五年祭に付き昨日商業同志會役員と交涉する處ありたるが尙は來る十四日には加來、奧田、桑野、田中佐、稻田、藤村、河野の諸議員とも協議する筈なり

二月中金融狀況

（京城日本人商業會議所調查）

本月中に於ける金融は前月に引續き頗る逼迫の狀態にあり其主たる原因たるや昨年來各地に蜂起せる暴徒の今尙ほ其餘力を逞ふし直接間接日韓商工業の發展を障害するあるも母國經濟界の不振より來る影響及當地商民が不動產に對する巨額の放資等は又以て其一原因たるを免れず加之本議會に於ける我政府の財政方針は痛く實業界を恐怖せしめ剩へ昨今各銀行の警戒緊縮は不振なる市況に一層の打擊を加へ商民の苦難や其想像以外にあるが如し勿論解氷期と共に公私諸工事の着手を見るに至らば多少の活氣を呈することを得べきも例の暴徒鎭壓を見る迄到底其恢復は至難たるべき乎

仁川外國貿易旬報

仁川港三月上旬に於ける輸出入額は輸出三萬八千六百二十六圓輸入三十一萬六千二百二十七圓合計三十五萬四千八百五十三圓にして輸出に比し二十七萬七千六百一圓の輸入超過なり輸出品の重要なるものは米一萬五千九百五十八圓大豆及び小豆八千五百五圓生牛千二百四十圓輸入品の重なる者は清酒千四百八十二圓打綿百四十圓生金巾及びシーチング一萬二千四百二十八圓日本木綿六百十九圓煙草四萬七千三十一圓マッチ千五百三十五圓砂糖及び精糖三千百八十七圓石炭一萬九百六十圓綿織糸一萬二千五百二十圓等にして金銀貨及び地金の輸出は一萬四千六百圓同輸入は二萬三千二百五十圓にして八百六十五圓の超過なり

●大三輪氏遺族に賜金　過般死去したる正二品資憲大夫勳二等大三輪長兵衛氏が在韓中鐵道院監督たりし際功勞ありしを以て韓皇帝より遺族扶助料として金四千圓を下賜されたり

●大審院長及び檢事總長の發表　曾て記したる如く渡邊暢氏は判事に任し大審院長に補し國分三亥氏は檢事に任し檢事總長に補すと一昨日の官報にて發表せり

●學校新設地視察員出發　既報本年度に於て新設さるべき普通學校位置視察のため學部柳田事務官石原技師の一行は明日出發京釜鐵道沿線地に向ふ

●俵次官の病氣引籠　俵學部次官は數日前より病氣にて引籠り療養中なり

●三浦理事官出發　三浦理事官が京城沿線及び馬山木浦群山等視察のことは既報の如くなるが本日愈よ出發せらるゝ筈なり夫人も馬山まで同行せらるべしと云ふ

●永田警視歸任　慶尙南北道に出張中なりし永田警視は此程歸任せり

●任命　石川縣事務官青木戒三氏は十一日附にて統監府書記官に任し高等官六等に敍せらる

●高等女學校內定　今回設立せらるべき京城高等女學校長兼敎諭には現任長野縣上田高等女學校長たる三浦直氏に內定し本月二十五日頃赴任の筈なり同氏着任の上は敎諭其他のもの決定せらるべしと云ふ

奇話集　其の一

村長の後見役

昔し僕の隣に豪家があつて其主人は頗る明敏なる老爺であつたが、兎角品行治まらぬので、親類會議の末村中の一番年長で圓滿な村長殿に後見を賴むことにした、村長殿は後見の條件として右の件々を約定した

第一　主人公は隱居し長男權一をして家督相續せしむること

第二　隱居は斷居全く家事に干涉せざること

斯くて隱居は親類共の仕打に不快で、遂に前召遣共を煽動して亂暴を働かせて居る、餘り長く亂暴するから村長はせめて孫でも可愛がれば隱居も少しは安心するであらうと考へ、孫を引連れて溫泉に行つた、其后家の騷動は少しも治まらぬ、村長殿少しく憤懣の情である、親類の中より村長に申して曰く、●●●●●貴殿にして御家騷動が嫌やなれば早く後見人を罷めよと家の執事は曰く御隱居に昔しの如く幾何らか家政を見せたなれば直く鎭まるだらう、村中の壯丁は大笑して曰く何に隱居の召遣位の弱虫は一打ちに叩き殺すがよい、それでも御家が治まらぬなれば村の安寧を妨害するから其家を潰すが第一策だと村長殿未だ後見人たるを好むが故に何れの計に出づるや決定せぬとサ。

近事片々

▲合併●　論者韓人間に顯はれしは面黑し其言ふ所至當名分の獨立よりも善政を好むと

▲暴虐●　壓制の下に獨立の美名を保つより屬邦たるも自由安寧の民たらむと宜なる哉

▲日本●　とは建國以來國情を異にせる韓國民情亦異る斯る理想は有得べき事不可怪也

▲年々●　歲々暴徒に苦められ惡吏の誅求之を救ひ自由安穩其職に勵ましむ是則人道也

▲米●　合併後の狀態如何カナダ土人は却て米國自由政治を悅びつゝあり要は唯是耳

▲理想●　の黃金境とは賢明大慈の君主自由なる良政の下各其職分を盡し嬉々樂む是れ

▲韓國●　の現狀より推想して如何にするが此理想に恰當せむ之れ合併を望む者有所以

▲何れ●　の邦國にも非政慨嘆者非倒愛國者なるものあり此輩の喧吠は民の聲にあらず

▲韓國●　には殊に此輩多し歸化露人歸化米人となる者亦た此輩の情推して知るべき耳

▲親日●　大臣の暗殺の風說亦た起る張博與仲間とは噓ならむ刺客の入城噓ならじ

▲瓢簞●　より駒が飛出す如き突飛の事は京城に間々あり殊に暗殺騷ぎは珍しからず嘲

▲暗殺●　を實行する爲に秘密結社の組織せられしとは風說に過ぎざるも大に警戒せよ

▲李完●　用內閣は最早總辭職をなさしめ多少民望ある新閣組織人心を新にするを要す

▲統監●　府側にても强て民望なき內閣を存立せしむる必要無曾禰副統監の英斷を望む

▲韓國●　內閣總選擧前に專任大臣任命あらむと其顏觸都築井勝末松千家秋元加納等也

▲何れ●　を見ても十把一束西園寺の下には末松秋元尤も好し伴食大臣何人でも構はぬ

▲西園●　寺原松田等政友會より大臣を拔擢するの勇なきか掉尾の仕事に蠻勇を揮ては

▲大岡●　鳩山長谷場元田抔政權に渴せる我利々々亡者を一度浮かばせては如何に呵々

●叙勳　九日附左の通叙勳ありたり

特陞叙勳一等賜八卦章　陸軍主計監勳二等　遠原恒司

陞叙二等賜八卦章　陸軍步兵中佐　若見虎治

陞叙勳二等賜八卦章　陸軍一等軍醫　石塚隆三郎

特叙勳四等賜太極章

●韓官任命　九日附左の通任命ありたり

任學部書記官叙奏任官二等　隈本繁吉

任農商工部技師叙奏任官三等　鈴木外次郎

任農商工部技師叙奏任官四等　岡　衛治

博物館調查事務を囑托す　下郡山誠一

●民會委員懇親會●●●●　京城居留民會も別項の如く既に一段落を告げたるを以て昨日午後七時より清華亭に於て懇親會を開きたり

●在布哇島の韓人　目下布哇島の各所に散在しつゝある韓國人は四千餘名の多數に達し基督教徒に歸依せしもの千餘名ありと

公人私人

△矢野忠之助（陸軍步兵大尉）　浦尾旅館へ

△恒吉忠道（陸軍少將）　天眞樓へ

△中牟田辰六（同中尉）　同上

제100호 1908. 3. 13.

●叙勲 九日附左の通叙勲ありたり

特陞叙勲一等 陸軍主計監 遠原信司

特陞叙勲二等 陸軍歩兵中佐 若見光治

特叙勲四等 一等軍醫 石塚隆三郎

木浦たより

夢幻子

當地方前年の農作物は各種の事情に依りて察するに平年作に劣らざる收穫を得たるは確的の事實なるに拘らず昨冬以來當地への廻穀例年に比して頗る減少し爲めに木浦の市場は非常なる不振の狀態に陷り候之れと申すも矢張り暴徒騷擾の影響にして其圏外に在る棉花及干鰯の廻穀が大なる增進を呈しつゝあるに徵しても立證致さるべく候

地方暴徒蜂起以來内地に居住せる者も何時危險の身に迫るべきを測知すべからざれば當地に引揚げ來る者ある位に候況して當地に在りて内地に出貿に從ふ者の恐れて尻込みするも無理からぬことに御座候掲て從來の郡守以來徴税の方法が所謂文明式にして郡守に於て取立つるが如き強壓手段を行はず僅に公錢徴收員を派して督促する位に候へば農民は暴徒の檄文流言に惑ひて益々納税を怠るもの如くに御座候

韓民は收穫米を市場に搬出し以て税金に換へ又衣服其他を調度するを常とす然るに暴徒は地方に橫行し勞々收穫米を積んで時期見送りの姿なれば廻穀薄く輸入品の不捌なる所以に有之候

左れば地方には出穀の餘裕あるものと見るを得べく徴税も漸次進捗せられ可申と同時に急劇にも弗々廻荷を見るならば例年の如く夏枯の閑散を見ずして海草干鰯類の季節と共に相應の活氣を呈すべく豫想致され候

木浦日本人商業會議所は去月廿九日定期會を開き四十一年度經常費歳出五千二百九十二圓○錢、四十一年度特別會計歳出三千八百四十圓を議了し直に理事者より理事官に認可の申請中なる由に候、尙木浦民團の四十一年度豫算は歳出一萬六千三十七圓五拾錢(經常費)壹千九百三十六圓貳拾五錢(臨時費)に有之去る會議に附し目下委員に於て調査中の由に御座候早々不一

警察部長と藝妓

部長は慈眼、藝妓は金太郎、山梨縣の滑稽劇

既報山梨縣警察部長羽塚慈眼氏(四十)が藝妓との間に醜態を演じて姿を隱せる詳報を記さんに、去五日夜武田山梨縣知事臨時縣會召集に先ち縣會議員一同を望仙閣に招きしが警察部長が性質磊落小節に拘はらざる豪傑肌にして意表に出づる擧動多きより當夜の宴も縣下の休戚に關する大問題を議するの前なれば萬一斯かる擧動ありてはならじと豫て注意を本人初め列席の諸高等官に與へ内々警戒する所ありしより當夜は羽塚氏のみは何やら物足らぬ風情なりしが席の漸く亂るゝ頃羽塚氏は竊に席を外し倉皇關峽樓に驅けつけ平生の思ひものなる藝妓米田中の金太郎(二十)を呼び酩酊低唱の末金太郎を伴ひて警察部長官舍に歸りたり、茲にまた武田知事は夜半隣接せる部長官舍へ二輛の車來りしを認め羽塚氏の不埒を懲らさんものと思ひ時を計りて羽塚氏の官舍をおとづれしところ取次人は不在なりとことわりしも知事は「おれは武田だ、歸つたところをたしかに突きとめて來たから是非上げよ」とて烈しく戸を叩くにぞ羽塚氏はスワ大事と金太郎の手を執りて兩人共に足袋跣足のまゝ裏手より辛うして此處を逃れ百石町の料理店新柳薬方に身をしのばせたり是に於て武田知事は直に警部望月嘉三郎氏に命を下し藝妓金太郎を檢擧すべく六日午前二時金太郎を甲府署に召喚し同日正午頃まで取調をなしたり然るに此際羽塚氏は嚴めしき制服に身をかため藝妓檢番所に來り上官を楯に望月警部に對し金太郎を放還せよと命せしも望月は知事の命なりとて手強く反抗せしに羽塚氏は嚇と怒りて大立廻りを演じ望月警部の制服の肋骨を引むしるまでの活劇を演じ漸く居合す人の仲裁にて事なきを得たり、茲にまた知事は夜明けて後再び警察部長官舍を訪ねしに羽塚氏は折から奥座敷に臥し居たれば知事は突然蒲團をめくりて傍に在りし火鉢を枕邊に投つけ憤然として引あげたり羽塚部長は事茲に至りては最早如何ともなすべからざるを悟り遽かに上京したり殆ど未曾有ともいふべき大椿事に山梨縣内務部長添田敬一郎氏は知事の旨に依り臨時縣會の結果を報告旁同事件を内務大臣に陳情のため羽塚部長の後を追うて上京せり、因に羽塚氏は眞宗僧侶の出身にして曾つて法政大學に學び後教師となり文官高等試驗に及第して官海に入り山梨縣へは昨年赴任したるものなるが尙ほ獨身にして堅からず性行は多少奇なる處ある人物なりといふさるにても磊落なる武田知事とこの異樣の羽塚氏との間に何等かの妙關係あるにはあらずやどいふものもある由

●韓官任命 九日附左の通任命ありたり

任學部書記官叙奏任官二等 隈本繁吉

任農商工部技師叙奏任官三等 鈴木外次郎

任農商工部技師叙奏任官四等 同 下郡山誠一

博物館調査事務を囑託す 同 衛治

●民會議員懇親會 京城居留民會も別項の如く既に一段落を告げたるを以て昨日午後七時より清華亭に於て懇親會を開きたり

●在布哇島の韓人 目下布哇島の各所に散在しつゝある韓國人は四千餘名の多數に達し基督教徒に歸依せしもの千餘名ありと

公人私人

▲矢野忠之助(陸軍步兵大尉) 浦尾旅館へ

▲恒吉忠道(陸軍少將) 天眞樓へ

▲中館田鑄(同中尉) 同上

●鑛業許可 三月三日より六日迄に許可されたる分は左の如し

金鑛九六、八七五坪 慶尙南道星州郡杜陵面 釜山南濱町四九 富井作次郎 同所 中村俊松

銅鑛六三九、七七〇坪 慶尙南道咸平郡並谷面 同所 中村俊松 同所 富井作次郎 釜山大廳町二三 入佐清静

黑鉛鑛九五二、三〇〇坪 平安北道龍川郡南面 京城南山町三丁目三八 山本倍三郎

銅鐵鑛四二七、〇一〇坪 慶尙南道昌原郡内西面 京城南山町二丁目六五 田中常次郎

金鑛四六六、〇六八坪 平安北道義州郡廣坪面 福岡市上市小路町一〇 石村虎吉 佐賀縣小城郡北多久村柚之木原炭坑 武内德松

銅鑛一〇七、九七〇坪 京畿道富平郡水呑面 龍山老松町 弘永正一

銅鑛一六、一九六坪 慶尙南道昌原郡北面 京城南署笠井洞六四 李鏞𨤵

砂金四四四、七八二坪 平安南道順安郡龍興面 東京芝區芝田町五丁目 淺野弘一郎

砂金四一、六五〇坪 平安南道順安郡龍興面 釜山本町三丁目二二 石井久三

●犬と甕の衝突 水票橋通り二十七統一戸甕商崔允明(三十)は昨日も毎時の如く澤山な甕を積み上げチゲに荷ひてカメソウカメと市中を賣り行き居りしが午後一時頃南大門二丁目の角より米倉町に曲らんとする際誤つてツコに寢居りし犬の尻尾を踏みし爲め犬は不意を打たれてワント吠へながら飛び起きしかば崔も驚きて之を避けんとせし機に傍の溝に足踏み滑べらして大事な商品を粉微塵に破壞せしにぞ崔は大に立腹し早速飼主に向つて損害倍償の請求をなせしに飼主は承知せず自分の知つた事ではないと刎ね付けしかばツンナラ一週間丈俺の女房や小供の活計を立てゝ呉れと迫りしが又々慳突を喰ひしかば崔はいよいよ腕力に訴へしに一方も負けず双方摑み合ひの最中巡檢の認むる所となり旅はれ目玉を頂戴して引き下りたり

奇怪錄

税金の還付請求

元の仁川民役所時代に税金の不納に對して強制執行の手續をなしたるは奇怪なり、某氏曰く民團は民團法によりて元の民役所が有せる權利義務を繼承したるものなれば右の不法所分に對し今日改めて納金還付請求の訴を起す可と

●燒酎で管を卷く 秋田縣能代湊新町平民目下當地旭町三丁目に居住する篠原兼定(四十)といへるは去る十一日午後六時頃より太平町の支那料理店李桑方に至り燒酎を飲んで管を卷き出し夜半に及べども立ち去らざるより店主が支那巡檢に說諭を願ひ巡檢が說諭すれども言語通せず店主も大に持て餘まし南部警察署へ屆出たるにより小野寺巡査出張して取調べて見ると代價は既に仕拂ひたるも尙ほ飽き足らざる故に燒酎を出せといひ店主は何のことやら判らざるために取合はざるより長居せしこと判明せしも大に酩酊し居れるを以て自宅へ連れ屆けたりと厄介の男なる哉

●車夫を毆り車を破る 千葉縣葛飾郡行德村の者にて目下永樂町二丁目に居住する相模世話人奥田長吉(五十)が去る七日本町七丁目韓人驛車場の前にて乘車せんとしたるとき車夫黄乘之なる者が挽き出したる人力車の車體醜しとて人の面部を毆打し且つ車を刎ね飛ばし泥除け及び車輪を毀損したることは前號に略報せしが去る十一日撿事より毆打器物毀棄事件として起訴せられたり

●韓人を監禁毆打す 飲食店や料理屋を營む者殘忍酷薄の者とはいへこれはまた甚しきものにて目下小公洞に飲食店を開業し居る大洋亭の主人は去る十一日の夜雇人の上谷チヨ(二十)が無斷にて外出せしが奇怪なりとて其の面部を毆打して負傷せしめチヨが警察署へ訴へ出るといへるより不法にも一間に押し込め外部より錠を鎖して監禁せしがチヨは夜もすがら工夫を凝らし午前四時頃漸く小窓の戸を押し破り夫れより飛び出して南部警察署へ驅け込み保護を願ひ出でたり

●無錢遊興 歡樂極まつて哀情多しとかいへるが是れはまた目前に尻尾の顯はるゝことを覺らずして一時の快樂を貪りたる橫着者にて岡山市西大町の岡本秀夫(三十)といへるはこの韓國に流れ來り一定の住所もなく漂浪する者なるが客月二十四日長谷川町の飲食店川村フサ方に至り鷹揚に構へて酒さ肴を出せ女は居ぬかさ太平樂を極め込んで其の夜は泊り込み二十五日の朝となつて一應御勘定をと附出せし六圓三十錢の書付を眺めて今は一文も持つて居らぬが又金が儲かつた時拂ふてやると立出んとするを店主が引留めお前さんが金を儲けて拂ふといふのは何時のことやら判りもせぬことを夫れを引當に待つて居るやうでは營業が立ち往かねば是非とも只今遣付けを爲し呉れよといへど無い袖が振れるものかと泰然自若として動かざるより同店にても持て餘まし恐れながらと警察署へ訴へ出たるにより去る十一日檢事より詐欺取財犯として起訴せられたり

●滊車泥棒 近來滊車中に於て盜難に罹るもの多きより其の筋に於て注意中なりし處大阪市南區大寳寺町三丁目森田幸吉(三十)といふ前科者が去月二十四日京釜線列車に乘り京城に來る途中三浪津附近に於て四十位の男が洋服の隱しに入れ居りたる金三圓九十五錢在中の財布を竊取し又三月九日午前九時過ぎ平壤行の列車が龍山を發せんとするとき其の列車中に於て五十位の婦人が帶の間に入れ居りたる金三圓四十錢在中の財布を竊取したること發覺し去る十一日撿事より起訴せられたり

●買物は泥棒の手段 去る十一日の午後三時頃南大門通三丁目の丁子屋支店に一韓人入り來り肩掛を買ひ取つて立ち去りしが間もなくして其の者が鳥打帽をごまかせしことを發見し店員がこれを追跡し捕拿して警察署へ連れ行きたり此の韓人は名を姜俊熙(十九)といひ全羅南道の麗津の者なりと

●材木を盜む 當地里門洞の擔軍池龍宅(六十)は去る十一日の夜大和町一丁目の人力車營業八大野角治宅前に積みありし松杉の丸太六本を竊取し逃げ去らんとする所を同家の人力車挽が認めて引つ捉へ警察署へ連れ行きたるが韓人はナカナカ油斷すべからざるなり

●科料二件 永樂町二丁目の村田組店員三浦政太郎(三十)は去る十日午後二時大和町一丁目の街道を號鈴の裝置なき自轉車に跨り乘り行くを巡査に認められ科料金三十錢に又新町二丁目月下樓の藝妓藤村ハツ(二十)は去る八日の夜旭町二丁目の津田榮太郎方に至り好やんと痴話に夜を明かしたるが無屆にて外泊せし廉により同壹圓九十錢の科料に處分せられたり

●京城藥報 初めて呱々の聲を舉げし雜誌なり體裁記事初刊としては整ひ居れり記者は醫界の爲め健全なる發達を遂げられん事を望む(一部二錢發行所本町四丁目京城藥報社)

제100호 1908. 3. 13.

新春廣告號

歯科全般の治療
米國最新式義歯
米國歯科醫學博士 女醫 中村安子
京城本町六丁目(教そは楯町)

高等下宿 日の出館
京城明治町一丁目(漢城病院向筋入)
弊館は設備完全にして最も閑靜なり
弊館は叮嚀懇切を以て特色とす

歯科診療

漢城病院を辭して開業す
前東京醫科大學勤務 統監府囑託 飯塚徹
東京共立歯科醫學校講師たりし 仁川分診所主任として 藤井庄次郎氏を聘す

京城診療所 南山町三丁目第一銀行横五軒目
仁川分診所 仁川病院前の角 毎五、十日出張

診療時間 午前八時より午後四時迄 夜間七時より八時迄 毎五、十日京城新來休診

出寫專務
寫眞師 高原華泉
寫眞師 奥田星華
審美舘
明治町二丁目衛戍病院前

西洋御料理宴會
日本人倶樂部
京城南山町三丁目(電話一二三番)

極材木、竹類、瓦灰
座敷廻り諸材料に注意取揃あり
右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

(卜)小森材木部
京城旭町一丁目 電話七四四番 本宅四〇五番

廣告

今般大日本麥酒株式會社に於て原料其他等の騰貴に伴ひ三月一日より値上實行相成候に付ては京城仁川兩各販賣店に於ても不得止左記の値段に相改め三月十五日より實行仕候事に致候間何卒倍舊の御引立御高需を賜度此段謹告仕候也

	京城賣値段	仁川賣値段
○サツポロビール 瓶四打入一箱付	金十圓三十錢	金十圓十錢
○アサヒビール 同	金十圓二十錢	金十圓十錢
○ビ・スビール 同	金十一圓四十錢	金十一圓二十錢

明治四十一年三月六日

京仁麥酒販賣組合

内外書籍新聞雜誌
和洋雜貨日用品
文房具學校用品
大阪朝日新聞 一ヶ月四十五錢
同 毎日新聞 一ヶ月四十錢
京城本町三丁目
(太)平田商店
(電話百十五番)

三月四日より開業

龍山桃山遊廓

小園 小龍 花子
小萬 小福 福助 福松
仲居 つる かめ

開業披露ラツパ節
ひらく花子の讃高樓
小園小龍のそのほかに
小萬福助福松や
仲を取りもつつるさかめ

讃高樓
電話架設中

一般患者ノ診療ニ從事ス

前院長橋本三男氏後任トシテ今般元福岡醫科大學醫員タリシ百合野寅松氏本日ヨリ診療ニ從事セラル

新王城大漢門前
日韓病院

本院ハ最新治療法チ旨トシ獨特トス
腫物、婦人病ニハ特ニビール氏ノ鬱血療法チ施ス
梅毒、癩病、下疳ハ本院ノ

眞崎製造
うどん そうめん そば
日本九州佐賀
製麵機械並に諸機械製造販賣
眞崎鐵工場

熊平製造金庫
東京 竹内製金庫
大阪二重瓶並ニ回轉式 消火器
韓國販賣部
京城本町一丁目
熊平商店
電話六二四番

南山町二丁目
植村病院
内外婦人科
毎日午後より種痘施行
(電話三三〇)

入院隨意
京城院
京城壽町一丁目
電話七四二番

和洋雜貨類
和洋文房具卸小賣
測量製圖器械尺度類
最新最良筆墨類發賣元
諸官衙御用達
京城本町郵便局前
シノサキ香店
電話六四八番

梅毒癩病
内科 外科
京城南大門外
入院隨意
戸田病院

入院隨意
十全病院
京城旭町三丁目
電話七三七番

銘茶販賣
專業
京城本町五丁目
富士の里茶舖

龍山
青木醫院
(電話一〇四番)
一般衛生試驗の依頼に應す
院長 青木濟六
副院長 原志麻治
藥局長 鳥山貞雄
京城分院
日韓病院 百合野福松
永登浦分院 松村勝熊
病室增築中

日本郵船株式會社
瀛船仁川出帆廣告
仁川海岸通 貨物及船客取扱店 郡回漕店 電話二九番
京城南大門通 巴商店 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戸行 山東丸	三月十五日	後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 第一オハヨ號	三月七日	後四時出
釧路丸	三月八日	後三時出
●大連、大沽行 高砂丸	三月五日	後三時出
山口丸	三月五日	後四時出
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸	三月十九日	後一時出
●鎭南浦行 第一オハヨ號	三月四日	後三時出
●釜山出帆、元山行 弘前丸	三月十一日	

御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ一本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事